

インドネシア、フィリピン、ペルー、チリ 4 ャ国の地震・津波防災関係者が宮城県被災地沿岸部を視察しました（2012/3/14～16）

3月14日（水）～15日（木）、に国際協力機構（JICA）、科学技術振興機構（JST）、防災科学技術研究所（NIED）が開催する地震津波防災国際シンポジウムが仙台国際センターで行われました。JICAとJSTによって行われ地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）の地震・津波プログラムの関係者（100名以上）が集まり、昨年の東日本大震災の教訓と自分の国のプロジェクトについて発表しました。中には14日15時から16時まで、今村教授が基調講演をしました。3月16日（金）、国際シンポジウムがを参加した外国人地震・津波防災関係者の方々が宮城県津波被災地を視察しました。視察では当センターのアナワット研究員、エリック博士課程生、ムハリ博士課程生が、石巻市門脇地区、女川町、仙台市浪分神社・荒浜地区、名取市閑上地区・仙台空港の順で各被災地を案内しました。車内の案内では過去三陸津波の歴史、東日本大震災の被害と現在の復旧・復興について説明しました。

基調講演

今村文彦：Historical review of tsunamis in Tohoku district and brief review of tsunami disasters in the Great East Japan earthquake



石巻市門脇地区の門脇小学校



仙台市荒浜地区の津波ハザードマップ